

## 菩提樹下の成道

於加茂法話会 令和五年十月二十七日

菩提樹下に坐す。お釈迦様は、村の人から吉祥草をもらって、ガンジス川の支流にあたるネーランジャラー川（日本では尼連禪河（にれんぜんが）の西岸の菩提樹を見つけ、吉祥草を敷き、幹の周りをさんかい回って、礼拝して、東側を向いて坐ると、深、冥想に入られました。

満月の夜、仏教では、前夜（午後六時から十時）・中夜（十時から二時）・後夜の（午前二時から六時）に分けます。

前夜の宵の口に人の生と死の繰り返しを見ることができ「天眼通」を得ました。

中夜に自分や衆生の過去世の生涯を知る智慧「宿命智・しくみようち」を体得しました。

後夜には、生老病死の苦悩は無明である。縁起の理を得ました。

太陽が昇るころには、苦の原因である。無明という迷いを滅する四段階と八つの実践方法の四諦八正道（したいはつしようどう）悟ります。佛陀となり、三十五歳であった。

四諦＝四つの真理ということですね。

四諦の四つの項目はそれぞれ、苦・集・滅・道（く・しゅう・めつ・どう）です。

苦…人生は苦しみですよ（苦の結果）

集…苦しみの原因は執着なのです（苦の原因）

滅…執着をなくせば、苦しみから脱することができますよ（楽の結果）

道…その執着をなくす方法が、八正道なのです。（楽の原因）

苦…空き缶が散らかっていますよね？（苦の結果）

集…散らかす人がいるせい（苦の原因）

滅…空き缶を片付ければキレイになります（楽の結果）

道…片付ける方法がコレなのです（楽の原因）

愛別離苦…愛する人と別れる苦しみ

怨憎会苦…嫌な人と会う苦しみ

求不得苦…求めても得られない苦しみ

五蘊盛苦…肉体煩惱が燃え盛る苦しみ

八正道とは、

正見（しょうけん）…正しい見解

正思（しょうし）…正しい思惟・思考

正語（しょうご）…正しい言葉

正業（しょうごう）…正しい行為

正命（しょうみょう）…正しい生活

正精進（しょうしん）…正しい努力

正念（しょうねん）…正しい念（おも）い

正定（しょうじょう）…正しい禅定